

前月号①

- 1 黒船来航
- 2 日米和親条約
- 3 桜田門外の変
- 4 蛤御門の変
- 5 薩長同盟
- 6 官僚的組織の限界(企業組織への教訓)

今月号②

- 7 大政奉還
- 8 明治維新から150年経過した(まとめ)
- 9 明治維新により近代国家に変貌
- 10 戦いには大義名分が必要(企業経営にも通じる)

【歴史に学ぶ(歴史は形を変えて繰り返す)】

明治維新に学ぶ 理念経営

その2



西郷隆盛

7

大政奉還

大政奉還とは、徳川家が握っている政治の権限を朝廷に返してしまい、倒幕派に戦争の理由を失わせ、徳川家を存続させるというもの。200年以上の政権を握っていた徳川家が権力を手放すわけがないと思われたが、徳川慶喜(よしのぶ)・江戸幕府最後の15代将軍で征夷大将軍に任じられた最後の人物(物)の英断により鎌倉幕府から700年近く続いた武家政治が終わった。徳川慶喜が大政奉還を受け入れ、王政復古の号令により明治天皇が政治をとることが示された。徳川慶喜が大政奉還を受け入れた日は、岩倉具視が倒幕の密勅を手に入れた日と同日であった。徳川慶喜が大政奉還を受け入れた1か月後、坂本龍馬が見廻組(会津藩)に暗殺される。

新政府の政治の方針として五箇条の御誓文が示された。この内容は、坂本龍馬が後藤象二郎に大政奉還案を託した時に船の中で言った船中八策(せんちゅうはつさく)の内容が多く含まれている。

その後、西郷隆盛と幕府の勝海舟との話し合いによって、江戸城

8

明治維新から150年経過した(まとめ)

明治維新とは、徳川幕府を薩摩



中小企業診断士・社会保険労務士 販売士
大野実雄氏

●プロフィール(オオノ ジツオ)
メーカー、経営コンサルティングファームを経てオオノ経営労務事務所開設。「変化には変化でしか対応できない」を企業支援の基本としている。著書に「売れるように売れば必ず売れる」「働き方・生き方こころの軸」「勝つ企業」等がある。

が新政府に引き渡された。(江戸城無血開城)しかし不満を持った会津藩(福島県)・桑名藩(三重県)は新政府と対立した。鳥羽・伏見の戦いや、函館五稜郭の戦いなどで抵抗したが、新政府軍に敗れた。この一連の戦いを戊辰戦争(ぼしんせんそう)という。

戊辰戦争の終結により、江戸時代は幕を閉じる。

徳川慶喜は、最後まで逃げまわり明治維新後も生き延びた。明治維新後は趣味に没頭する生活を送り、77歳で風邪により死亡した。

藩・長州藩らが倒した戊辰戦争(ぼしんせんそう)によって成立したものの。その緒戦は、京都南部の鳥羽・伏見で行われましたが、その時、幕府軍は一万五千。対する薩長軍はわずかに五千。戦力的に圧倒していたのは幕府軍でしたが、総大将の徳川慶喜はろくに戦わないまま退却し、そのまま江戸に逃げ帰ってしまいました。

実は、大久保利通らの発案で、薩長軍に「錦の御旗がひるがえったからです。薩長軍が天皇の軍隊「官軍」となり、幕府軍は「賊軍」とのレッテルが貼られてしまいました。戦力的に優位であったにもかかわらず、尊王派であった慶喜は戦意を喪失したのです。つまり、明治維新とは軍事衝突というよりも「王(天皇のこと)の奪い合い」という政治抗争だったのです。

* 賊軍(そくぐん)：「官軍」の対語で、日本史上その軍の正当性を否定する言葉。天皇・朝廷の意思にそぐわないとされた側の軍(反乱軍)のこと。
* 尊王(そんわう)：天皇を敬ぶ。
* 尊王攘夷(そんわうじょうい)：王を尊び、外敵を撃退しようとする思想である。
* 佐幕(さまく)：動乱の幕末期によく使われた言葉で、「幕府を補佐する」の意。

10

戦いには大義名分が必要(企業経営にも通じる)

倒幕運動から、明治政府による天皇親政体制の転換とそれに伴う一連の改革をいう。その範囲は、中央官制・法制・官制・身分制・地方行政・金融・流通・産業・経済・文化・教育・外交・宗教・思想政策など多岐に及び、日本を東アジアで最初の西洋的国民国家体制を有する近代国家へと変貌させた。

戊辰戦争では白虎隊のような悲劇を生みましたが、総じて大規模な内戦とはなりません。世界史的にみるならば、無血革命と呼んでも差し支えない。このおかげで、大久保ら新政府首脳はいち早く近代化を進め、日本は他のアジア諸国のように列強の植民地となることを免れました。

さて、この故事から何を学ぶか? 戦いとは、「大義名分」があるほうが勝つということです。企業経営も経営戦略や日々の営業活動以前に「大義名分」、すなわち「経営理念」が必要です。「理念なき戦略は罪悪である」とすら思われますし、同時に「理念こそ最大の武器である」のです。

「大義名分」とは、広辞苑によると、「人として、また臣民として守るべき節義と分限」です。これを現代の経営に置き換えると、「社会の一員としての企業として、また顧客や消費者に役に立つ企業としての存在意義や果たすべき役割」といえます。

* 節義…人としての正しい道を踏み行うこと。
* 分限…持っている身分・才能などの程度。

お金儲けのためだけに経営をしているわけではないと思われ。その理念を形に表して、旗として高らかに掲げたなら、きっと勝てます。企業で「勝つ」とは、適正利益を得て継続することです。「人は血液がないと生きられない。」「企業の生きる血液は利益であります。」

〈完〉

歴史は、今を経営する者がより良い事業を展開するために、先人が遺してくれた経営の鑑(かがみ)でもあります。

* 史実は諸説あります。本文とは異なる説もありますのでご了承ください。
* イラストはイメージです。
* 参考文献「明治維新革命」彰流社、「明治維新」岩波書店

9 明治維新により近代国家に変貌

明治維新とは江戸幕府に対する